

水稲の生育状況と当面の対策

第 1 報
千葉県農林水産部
平成 24 年 6 月 4 日

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

茎数は平年より多！速やかに中干しを！ ふさおとめは幼穂形成に注意！

[生育概況]

○生育は順調で、茎数はほぼ確保！（「表1」を参照）

今年は、田植え以降の天候は良好で、稲は順調に生育を示しており、茎数はほぼ確保されました。茎数が過剰になると乳白米等の未熟粒が発生しやすくなります。速やかに中干しを開始して過剰な分けつの発生を抑えましょう。

表1 品種別の生育状況（6月1日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	やや早	並	やや多～多	並
ふさこがね	4月20日頃	やや早	並	やや多～多	並～やや濃
コシヒカリ	4月20日頃	やや早	並	多	並～やや濃
	5月1日頃	やや早	並	やや多～多	並～やや濃
ふさのもち	4月20日頃	やや早	並	多	並～やや濃
	5月10日頃	やや早	並	やや多～多	並～やや濃

※ 過去5か年（2007～2011年）の平均値との比較。

ただし「ふさのもち」については2010～2011年の平均値との比較。

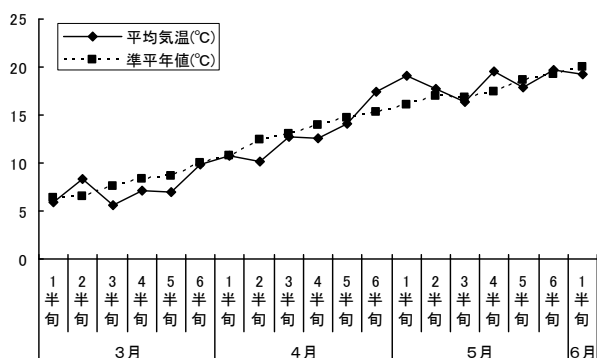


図1 平均気温の推移（佐倉市）

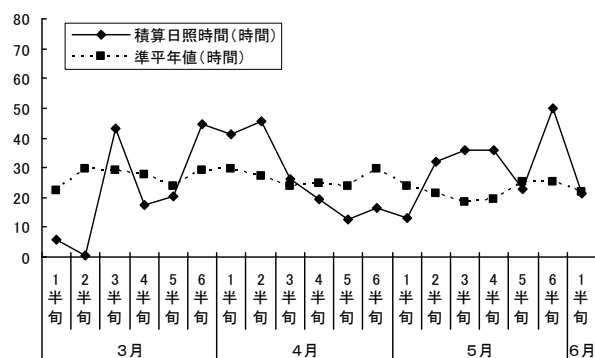


図2 積算日照時間の推移（佐倉市）

[これからの管理のポイント]

○茎数過多に要注意！

今年は田植え以降の天候は良好で、目標茎数は確保されています。葉色が並み～やや濃い傾向を示していることから、さらに分けつが増えることが予想されます。茎数過多は倒伏や玄米品質低下の原因となるので、「表2」の目標茎数を確認し、速やかに中干しを始めましょ

※中干しのやり方と水管理

- ① 中干しは強すぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前3週間から出穂後2週間までは湛水管理（この期間は田面が露出しないように管理する）
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	—	360本/m ² (20本/株)	—
コシヒカリ	4月20日 5月1日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※ 極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

○ 今後の低温に注意！

気象庁が6月1日に発表した1か月予報によると、向こう1か月は平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みです。この時期に、気温が19℃以下になると分けつが抑制され、生育も遅れます。

低温が予想されるときは、深水管理で水温を維持しましょう。

○ 「ふさおとめ」は幼穂を観察し、穂肥に備えましょう！

（「表3」「表4」を参照）

4月20日植えの「ふさおとめ」は平年よりやや早く、6月14日頃から幼穂形成期（幼穂長1mm）となる見込みです。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期から1週間以内（幼穂長1～10mm）に施用しましょう。

幼穂形成期の生育量の目安は表4のとおりです。

表3 品種別の幼穂形成期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）			
		県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日	6月19日～	6月17日～	6月17日～	6月14日～

※ 日平均気温に基づく発育段階予測結果

表4 幼穂形成期の好適な生育量

品種	茎数（本/m ² ）			葉色 （カラスケール値）
	砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	570～620 (31～34本)		520～570 (29～31本)	4

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

○葉色はさめても窒素の中間追肥は行わない！

穂肥適期前には葉色が低下しても、窒素の中間追肥は行わないようにしましょう。この時期の窒素の中間追肥は倒伏を招き、食味・品質・収量や、収穫時の作業性に悪影響を及ぼします。

○置き苗を処理しましょう！

補植用にほ場の片隅に置いてある苗はいもち病の発生源になります。速やかに廃棄しましょう。

○生産履歴を必ず記帳しましょう！

流通業界や消費者から、いつどのような肥料や農薬を使ったのか等の栽培履歴が分かる米が求められています。消費者に信頼される米づくりのために、必ず生産履歴を記帳しましょう。



図3 ふさこがね（4月20日植え）
6月4日（千葉市緑区刈田子）の様子

平年より葉令はやや進んでおり、茎数が多い。
すでに中干しの時期を迎えている。

米の放射性セシウム吸収抑制対策

～中間追肥または穂肥で加里を補いましょう！～

今年の4月1日から、米の放射性セシウムに係る新たな基準値は1キログラム当たり100ベクレルとなり、昨年より厳しくなりました。

各生産者が米の放射性セシウム吸収抑制対策に取り組み、早場米産地として、地域の米がスムーズに出荷できるように努めましょう。

<ポイント> 加里肥料を適正量まで施用しましょう！

県の加里の施用基準量は、基肥 6～8kg/10a、穂肥 1～3kg/10a です。
加里を施用することによって、放射性セシウムの稲への吸収を抑制することができます。
なお、倒伏を防ぐため、窒素は適正量とします。

特に土壤中の加里含量が少ないことが予想される以下の水田では、中間追肥や穂肥で加里の施用を行いましょう。

- ①倒伏を回避するため、基肥の施用量を控えた水田。
- ②一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田。
- ③耕畜連携等により水田から稲わらを持ち出し、堆肥を入れなかった水田。
- ④土壤に含まれる加里が少ないと思われる（砂質）水田。

施肥に際しての注意点

- 一発肥料を施用している場合は、穂肥分の加里が含まれていないため、中間追肥（幼穂形成期前の施肥）または穂肥で、窒素成分を含まない加里肥料（ケイ酸加里や塩化加里）を施用します。
- 基肥と穂肥を体系で施用している場合は、穂肥の適期にNK化成等の窒素と加里を含む肥料を施用します。また、中間追肥を行う場合は、稲の倒伏を防ぐため、窒素成分を含まない加里肥料を施用します。

施肥体系	中間追肥 (幼穂形成期前の施肥)	穂肥
一発肥料	窒素成分を含まない加里肥料	
基肥+穂肥	(窒素成分を含まない加里肥料)	窒素・加里肥料

加里肥料の施用量：いずれも加里成分で 3kg/10a
成分から換算すると ・ケイ酸加里：15kg/10a または
・塩化加里：5kg/10a となります。